ハートネットワーク

心豊かなふれあいと連帯感のあるまち

天間

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。

あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。10月は鷹岡、11月は丘地区です。連絡先…市内永田町1－100 市広報広聴課☎51－0123　内線2822、締め切りは毎月15日です。

△天間の天神さんは地域の代表的な祭り

▶人　　口　6,477人
▶世帯数　1,796世帯
(61年7月1日現在)
▶面　　積　2.58平方キロメートル

天間地区は、昭和五十九年四月鷹岡地区から分離して新しい地区を形成しました。

地区には、県道鷹岡柚木線（通称旧道）、国鉄身延線、国道一三九号線が南東から北西へ通り、国鉄富士根駅があります。

富士根駅は、富士製紙第二工場（現在の本州製紙富士宮工場）のためにつくられた駅ということもあって、駅周辺は製紙工場が取り囲むようにあり、旧道沿いは東洋インキ工場を含め工場の多い地域です。身延線より北側国道一三九号線にかけては旧来の集落地域、国道よりさらに北側は茶畑や畑地の広がる地域でしたが、近年ベッドタウン化してきました。

また、南部の潤井川左岸は、昔ながらの水田地帯で、昭和五十四年四月、天間小学校ができました。

地区には市内最大の縄文遺跡である天間沢遺跡、奈良時代の集落址である代山遺跡があり（両遺跡とも現在は宅地化が進行している）天間沢川の両岸の台地が早くから開かれたことを物語っています。

おじゃまします

虫歯がゼロ一家

天間南　井出さん一家

虫歯のない歯は健康のもと。一家で虫歯はゼロ、おまけに六月に行われた母と子のよい歯のコンクールで市長賞を受賞した井出さん一家におじゃましました。

歯磨きのコマーシャルではありませんが、「白い歯っていいな」と思わず口に出てしまいそうな井出さん一家。市長賞を受賞したのは、お母さんの恭子さん（三十歳）と長女の千草ちゃん（四歳）。虫歯のないのはもちろん、とても美しい歯並びです。

恭子さんは「物心ついたときから虫歯にならないようしつけを受けてきた」と言うだけあって、歯の健康に意識的な生活をしてきました。

千草ちゃんを妊娠中から食事に注意し、生まれてからは小魚などをよく食べさせています。

お父さんの利近（としちか）さんと恭子さんは一日三回、千草ちゃんと次女の由起ちゃんは一日二回、歯を磨きます。千草ちゃんは環境のなせるわざか、歯磨きを嫌がらず、自分から磨きます。

利近さんは「子供のころ虫歯だらけで痛い思いをしました。自分の子供には虫歯がないようにしたいと思っています」とただ一人の虫歯体験談。

余談ですが、利近さんは恭子さんの美しい口もとにほれたとか…。ごちそうさまでした。

◁右から利近さん、由起ちゃん、恭子さん、千草ちゃん

まちか

我がまちを語る

長橋 敏夫さん

天間北1（74歳）

天神さんで地域が和

天間は天間沢遺跡でも知られるとおり、大昔から人が住んでいました。そのわけは豊富な地下水があったからです。昔は水がなくてアワなどをつくった杉田（富士宮市）の人と比べて「天間低くて米のもち」と言い、人々は湧水を誇りとしていました。毎年八月二十四日・二十五日に祭りの行われる天間の天神さんには、水の神様もまつられています。

また、天神さんのお祭りは、地域の融和という意味でも大きな役割を果たしました。

現在の天間は、高度経済成長に合わせて人口がふえましたが、地元生まれの人たちは、ともすれば排他的な一面もありました。

しかし、区をあげて順番に執行する天神さんのお祭りで人々が融和し、今はむしろ地域の行事では、転入してきた人たちが積極的で、活気のある地区となっています。

クローズアップ人

ことしの富士まつりのビッグイベントだった「ミスかぐや姫コンテスト」。杉山さんは「軽い気持ちで参加した」ところ、並みいる美人百二十二人のうちから、見事ミスの座につきました。

参加者中最年少とあって、野に咲くユリのような可憐さは、多くの人の目をひときわ引きました。

「うれしいと言うより、責任を感じています」と本人にとっては意外な受賞で、信じられなかったとか。普段は「チーズケーキとショッピングが好き」という普通の高校生です。

かぐや姫のことは、「小さいころ、お母さんに竹取物語の歌を歌ってもらった」ことが印象に強く残っています。その優しいお母さんは、杉山さんが小学校四年生のときに、不幸にも亡くなられ、杉山さんにとっては、かぐや姫＝お母さんというイメージがありました。

「ミスかぐや姫」を一番喜んでいるのは、天国のお母さんかもしれませんね。

初代ミスかぐや姫

杉山みさき さん

天間南

あの人・この人・こんなこと

富士山を写して十六年

佐野璋二さん（天間南）

富士山と高山植物をカメラで追い続けて十六年。今回、富士山の笠雲の写真で市展の教育長賞を受賞しました。

自宅に富士山観察用の部屋を設け、毎日記録する努力家で、休みの日はもっぱら自然観察に出かけています。自然を写すのは「歩く過程がおもしろい」と言う自然探究派です。

天間太鼓の後継者

中川青己（はるみ）さん（天間北二）

「ドン、ドン、ドドーン」と勇ましい天間太鼓。中川さんは小学校五年生のときばちを握り、ことしで七年目。現在二十二人いるメンバーのリーダーとして、また、天間太鼓の若き後継者として活躍しています。「一生懸命たたいて、聞いている人にわかってもらえたときの感動は何ともいえません」とあどけないひとみがキラリ。

マイペースで楽しむ

天間ジョギングクラブ

昨年の十月、地区のジョギング好きの仲間が集まり発足。

現在、二十人の仲間が週四日、夜八時から、それぞれ三～五㌔のコースをマイペースで楽しむ。

女性が十五人と圧倒的に多いが男性陣は指導的な役割を果たす。

「ジョギングを始めてから持久力がついた」と参加者の弁。今後も長く続けていきたいと言います。